

《本号の表紙絵》

拓殖大学漢方医学講座に関する資料

(拓殖大学所蔵)

拓殖大学の附属講座として小石川区若荷谷町の同大学を会場として1937～1944年(昭12～19)に開催された漢方医学講座(1936年の拓大における2回の漢方講習会偕行学苑がその前身)は、昭和漢方興隆の起点となった事業として知られる。大塚敬節・矢数道明・矢数有道・木村長久・清水藤太郎・柳谷素霊・石原保秀をはじめとする充実した講師陣により、江戸期以来の古方派・後世派・折衷派などの流派の垣根を超えて、湯液・鍼灸・生薬学・医史学を柱とした基礎知識と臨床講義からなる我が国初の本格的な漢方医学講座がここに開催され、計700人を超える修了者を世に送った。

拓殖大学は、日清戦争による台湾領有後、台湾経営に資する人材養成機関として1898年に創設された台湾協会を起源とする。1900年に台湾協会学校が発足し(1904年に旧制専門学校)、1907年に東洋協会・東洋協会学校と改称。1922年に大学に昇格し、1926年に東洋協会大学から拓殖大学に改称され、1949年に新制大学となり今日に至る。筆者は最近、拓殖アーカイブズ事業室が管理する同大学所蔵のこれまで報告されていない漢方医学講座に関する資料を閲覧する機会に恵まれたので、本号の表紙に掲げて紹介する。

拓大漢方医学講座に関する資料は、事務記録、事務日記、授業料納入原簿、領収書綴、請求書綴、収支明細簿、入学申込書、修了者名簿などからなる。附属事業として大学本体とは別会計で開催されたため、独立した事務記録・収支簿類が比較的豊富に残された。

修了者名簿には、昭和12年77人、13年50人、14年70人、15年55人、16年97人、17年65人、18年75人、19年64人の計553人、及び15年夏期講座51人を加えた604人の講座修了者の番号と名前が修了証書と割印の形式で記されている。

『漢方医学講座事務記録 昭和12年1月起』の冒頭に記された開講の辞「漢方医学講座開講ニ就テ」からは、開講当初の漢方家たちの意気込みが伝わってくる。

漢方医学ハ我国ニ渡来シテ以来研究セラレ益発達シ諸大家ヲ輩出スルニ至レリ。医学史的ニ觀察シ古法派、後世派、折衷派ノ三大別サレ、各割拠ノ状態ナリシガ、明治初年洋風採用ノ風潮ニ会ヒ、医学モ亦洋医ニ依ラザレバ新ニ開業医タルヲ得ザルコト、ナレリ。茲ニ於テ漢方諸派合同シテ温知社ヲ設ケ其ノ進展ヲ謀リタリシガ、成績ノ見ルベキモノ無カリキ。偕行学苑ハ前記三派ノ師風ヲ継承シタル若キ学徒ノ合同体ニシテ、斯学ノ復興ヲ使命トシ、第一回第二回講習会ヲ本大学講堂ニテ開催シ、其成績見ルベキモノアリ、同学苑ヨリ本大学ニ於テ引続キ経営サレ度旨申出アリタリ。本大学ハ昭和十二年一月十八日、評議員会ニ諮リタルニ、東洋学術宣揚ノ為メ本大学ノ附属事業トシテ妥当ナルニ付、之ヲ受諾シ経営スルコトニ議決サレタリ。但シ特別会計トシテ大学経済トハ全ク別個ノ収支計算トス。

(町 泉寿郎)